

令和5年度平塚工科高等学校

第2回学校運営協議会

議事録

日付: 令和5年11月4日土曜日

時刻: 13:00

司会: 教頭

記録: 田中（聡）

出席者

出席者一覧参照

校長挨拶

会長挨拶

教育活動報告

1. 別紙資料参照
2. 上半期活動報告（各グループより）

（1）学事グループ

生徒授業評価集約結果

- ・9割がたの生徒が授業内容に満足し、主体的に授業に参加できている。
- ・先を見据えた授業展開を望むという意見があるので、改善していきたい。
- ・次年度全学年新カリキュラムとなるので、滞りなく移行できるよう準備していく。

（2）生徒支援グループ

- ・外部講師によるSNS、スマホ等の使い方講習会を実施した。
- ・平塚市と共同で交通安全指導を行った。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、サポート・ドックとして活動した。

(3) 進路グループ

- ・進学：指定校推薦の出願の準備を進めている。

進路結果については3月に説明する。

- ・就職：内定企業一覧参照。

合格率 91.5%くらいで去年とほぼ同じくらいであった。

新規にチャレンジした会社は昨年7社に対して今年10社と増加した。

未定生徒は3名で今年中には決まると思われる。

(4) 教科外グループ

- ・生徒会活動について

学校行事で中心となり活動している。

本日の文化祭を含め、今まで放送で行っていた様々な学校行事が以前のような形式に戻っている。皆様に見ていただくため、感染症対策等実施し、生徒たちは一生懸命やっている。

(5) 総務グループ

- ・PTA 活動

加入率は99.9%と高いが、活動参加者が少ない。参加者の増加が課題。

- ・地域活動

地域の学童と避難訓練を行い連携を深めた。

文化祭で、平塚市防災対策課の協力のもと、新型3D起震車の体験を実施した。

(6) 広報企画グループ

- ・学校広報活動

学校説明会2回、ものづくり体験会（小学生対象含む）2回実施。

定員割れが続いているので、工業に目が向いていない人たちの掘り起しが課題。

来場者の傾向は、約半数が平塚市。その他横浜市、茅ヶ崎市、大磯、二宮となっている。平塚の比率を上げたい。

(7) 総合技術グループ

- ・総合技術グループとは

専門学科関係の取り扱い窓口。資格取得推進に取り組んでいる。

コロナ後通常授業に戻り、放課後の資格取得指導は時間的に困難。合格率を上げるのが難しい。

環境化学系で脱炭素授業に取り組んでおり、3月に報告する。

学校評議員会

別紙学校評価報告書参照

(1) 総合技術グループ

・①、②について

いずれも先ほどの説明通り。

・高大連携について

神奈川工科大学と、神奈川県全体の工業高校との連携として取り組んだ。

次年度は本校が幹事校として取り組んでいく。

・質問・意見

Q：①について検定の人数は増えているのか横ばいか。

A：横ばい。検定対策にとれる時間が少なくなっており、横ばいまたは若干減少。

A：電気工事については、受験希望者数が減少。第二種電気工事士上期に7人が合格。筆記試験で半分程度が不合格。実技はほぼ全員が合格。

昨年度の合格者数が多かったため減少しているが、努力不足だと考えている。

技能検定については、機械加工検定と機械検査検定については機械部の部活動として取得推進。

Q：②について、I C T 機器の活用や ChromeBook の活用が評価されていない。

事業改革としてこの点が記載されていると良い。

A：ChromeBook は常時60台から70台貸し出している。

利用している授業・・・1年生工業基礎実習（環境化学系レポート提出）

物理実験

プログラミング・・・お互いのソースコードを見ながら議論。

少しずつ活用が広がっている。来年度以降期待できる。

課題：ChromeBook の貸し出しが台数不足になりつつある。

来年2月にリース切れになるものがあり、不足する恐れがある。

購入を強要できるものではなく、学校説明会でも貸し出しについての質問が

あるが、現状は厳しい。また職員側が授業で慣れることが重要。

A : ChromeBook の斡旋は総合技術グループで行っている。今年で 3 年目。

今年度は従来タイプに加えて脱着可能なタイプを斡旋した。しかし、このタイプは壊れやすい為やめる予定。本校の授業では数式を使うことが多いので、来年度からペン付きのものを斡旋する予定。

(2) 生徒支援グループ

- ① 4 月から通常授業に戻ったことで生徒に疲労がみられたが、2 学期に入り遅刻もそれほどなくなってきている。

自転車事故については 0 を達成できているが、近隣とのトラブルが多いため、対策を考えていかなければならない。

- ② 神奈川サポートドックについては、生徒に対してアンケート方式で問題点を探っている。SSW、SC 2 名が配置され現在取り組んでいる。

補足説明（副校長）

アンケートの結果、100 名程度の面談が必要であり、SC SSW が手分けをして 1 日約 16 名の面談をしている。かなり厳しい環境の中通学している生徒が多いことがわかった。神奈川サポートドックのようにプッシュ型のアプローチをすることで現状が見えてくると考えている。

Q : 電動自転車など移動体が増えて複雑になっており、大変事故も多いと聞いている。

規制のあり方についてまとめておいた方が良いのではないかな。

A : 電動自転車については使用を認めている。

電動キックボードについては、法改正前に、電気自転車と同様の扱いとする方針を決めている。ただ危険性があり、協会から指摘をうけている。

Q : 60 キロ程度までスピードが出てしまうため問題があると思う。難しい問題ではあるが、事故が起きてからでは遅いので、対応を検討してほしい。

(3) 教科外グループ

③について、前回数値が入っていないという指摘があった件について、グループとして再度検討した。

部活動については、本校は奨励したい意向はあるが、様々な個性や家庭事情を鑑み、半分程度を目標にするという事に見直しをした。

委員会の回数は、委員会ごとに状況が違うので一概に言えない。生徒会の委員が主体的に進めていくことが望ましいと考えている。その為、回数については大体 3 回程度となっている。

部活動の回数は、データ管理しており、在籍人数で割った値の 49.2 回という値が入っている。年度途中の為、今後の経過を見ながら来年度以降のやり方を決めていく。

Q：平工のホームページでは、学校行事については見ることができるが、部活動、生徒会活動についてはかなり長い間更新されていないものが見受けられる。特に部活動紹介一覧表は相当昔のものが使われている。今の中学生はネットで部活動の状況を調べてこの学校に行きたいと言っていることをよく聞くので、中学生がよく見るところを重点的に更新していくことが大事。いまいる生徒ではなく、今後入学してくる生徒に向けて部活動をアピールしていくほうが良いのではないか。

Q：東海大学の合格者の話では、大学も定員をクリアするので難しくなっている。

電子工学科でも学生が集まらなくなっている。空いている推薦枠を利用して大学進学希望者を入学させる方法もあるのではないか。推薦枠は何校かあるのか。

A：神奈川県内の大学はかなりある。神奈川工科・東海大・関東学院・東京工芸、千葉工大等があります。

Q：それは指定校外か

A：指定校があるところは少ない。指定校は受かった実績なので少ないが、今年度どの大学で指定校推薦があるということは掲示している。推薦枠も毎年変わるので難しい。

(4) 進路グループ

就職にしても進学にしても自ら決定しないと入社、入学後のモチベーションにかかわるため、一年生の時から進路に対する意識を持たせ、三年時には満を持して決定できるようにしている。またどのような求人があるか情報共有するように努めている。

本校の就職内定率は9割以上であり、これは他の工業高校と比べても高い。

一方で、上級学校の進学を希望する生徒も一定数いる。一番の課題は経済的な問題で、今後は奨学金の話などをしっかり説明していく必要がある。

Q：奨学金については国も力を入れており、給付型の奨学金も増えてきている。

年収制限が問題になることが多いが、理工系の場合は緩やかになる傾向にあるので是非検討してほしい。今までは給付型の奨学金は一般入試が主だったが、推薦での給付型も増えてきているので使ってみてはどうか。

平工の成績トップクラスの生徒は就職と進学のどちらを希望することが多いですか。

A：就職がほとんど。特に大手への就職が多く、定着率も高い。

Q：平工は本当に就職に強いイメージがある。少し進学にも目を向けて欲しい。

(5) 広報企画グループ（4－①）

夏休みの学校説明会・体験会・ものづくり体験会、いずれも応募人数は多かったが、職員への負担が大きかった。応募者は主にホームページを見て来ていたが、中学校へ出した手紙を見て応募した例もあった。今後も中学校での説明会等積極的に行っていく。今後は工業高校に興味のない人の掘り起こしとして、製作物を持ち帰れるようにするなどの工夫が必要である。

Q：一年生の時から専門校を体験できれば、三年になってからの進路決定に活かせる。

現状では選択肢が狭まった結果、普通科を選ぶことが非常に多い。今後とも積極的な学校の紹介をして欲しいと。また、平工に環境化学系があることを知らない生徒が多い。是非、より興味を持つようお互い協力していきたい。

(6) 総務グループ(4-②)

地域の防災拠点として学童の避難訓練を実施した。今後も花水幼稚園等の避難訓練をおこなっていききたい。

5の①について(副校長)

本校は職員室が3か所に分散している。そのため、普通科では毎日行っている朝の打ち合わせも週に1度しかできていない。そこで、情報の共有を円滑にするためのツールとして Teams を活用している。このことで職員の時間外労働を削減することができた。

しかし、ストレスチェックの結果を見ると、50代で高ストレス者がいるため、ICT機器を使うことによるストレスと考えられる。

Q : Teams の利用とは Web 会議に使っているということか。

A (副校長) : 掲示板の活用が主で、Web 会議には使っていない。Web 会議だと意見が出にくくなるので、現状使う予定はないが、状況を見て判断していきたい。

(7) 総務グループ(5-②)

8月末に、地震の後に火災が発生した状況を想定した訓練を実施した。また、1月に地震後津波が発生する想定で実施する予定。災害はどの様に展開するかわからないので、様々なパターンを想定しながら対応を検討していく必要がある。

一年生には DIG (災害図上訓練) を実施中。

Q : 工業高校は少ないので、平工生は電車通学が多いのではないか。学校にいる時の被災だけではなく、通学中に災害に会った場合も想定して、普段からモバイルバッテリーと懐中電灯は持ち歩くようにしたほうがよい。

閉会